

目次

□巻頭言 建設の機械化に想う……………飯田 房太郎/1

□昭和47年度官公庁の事業概要

通商産業省電源開発事業の概要……………中村 範次/2
 庄内平野における送泥客土の計画と施工……………茂野 啓一/8
 大雪ダムの機械設備と施工実績……………相田 俊郎/14
 今井 正司
 J.C.M.A. 欧州建設機械化視察団報告……………林 正治/19

グラビヤ—フランス・パリ・エキスポマツ

ハノーバー国際産業見本市見学記……………森川 巖/32

□随想 平均気温 28°C……………丸安 隆和/36

□昭和46年度官公庁・建設業界で採用した新機種

建設省で採用した新機種……………中野 俊次/38
 石 沢 利 雄
 農林省で採用した新機種……………西出 定雄/48
 日本国有鉄道で採用した新機種……………石黒 敏正/52
 日本鉄道建設公団で採用した新機種……………桜 沢 昇/55
 本州四国連絡橋公団で採用した新機種……………沢 田 茂良/61
 建設業界で採用した新機種……………佐藤 裕俊/64

□建設機械化講座 第108回 現場フォアマンのための土木と施工法

XVII. 建設機械概説

3. ショベル系建設機械(その3)……………田中 成一/77

□研究所巡り

東京都土木技術研究所……………沢島 静男/86
 村 進之助
 三菱重工業技術本部広島研究所……………井岡 進博/89
 太田 孝博

第23回定時総会開催……………/92

□文献調査

溝掘り機と専用型わくを用いた地下トンネルの建設……………広報部会/100
 文献調査委員会

ニューズ……………(編集部)/102

行事一覧……………/103

編集後記……………(西出・牧)/104

◀表紙写真説明▶

日立水陸両用油圧ショベル

日立建機株式会社

本機は作業水深3m、掘削水深6mのバックホウ形水陸両用油圧ショベルで、搭乗運転はもちろん、無線による遠隔操縦ができる。また水底での掘削を安全、正確、能率よく行なうため自動掘削装置、掘削深さ制御、安息角制御装置など各種の新機構を備えている。

本機は河川、臨海部などでの一般浚渫、土運船への積み込みはもちろん、各種のアタッチメントを装着することにより硬土盤の掘削、岩盤の破碎などができ、各種の海洋工事での活躍が期待される。なお、本機は建設省の指導のもとに計画され、昭和47年3月末に関東地方建設局に納入された。

主 要 目

作業水深：3m
 無線操縦可能範囲：最大半径 100m
 重 量：陸上 16t (水中 11t)
 機関出力：80 PS/2,000 rpm
 バケット容量：0.35 m³ (山積)